



お客様とやりとりがモチベーションに!

「Voice」

入社6年目
清水 聡さん
知的障がい
指導もこなす
中堅スタッフ

■ 清水さんの担当業務

■ グロサリー業務
ドリンクの品出し、陳列、在庫管理
■ パートさんの補助
グロサリー部門は男性が少ないので力仕事を中心にサポート
■ カートやカゴの管理

支援学校の現場実習でトキハインダストリーのグロサリーを経験し、卒業後に入社しました。今はグロサリーで、主にドリンクの陳列や在庫管理を行っています。楽しいのはお客様とのやり取り。おはよう「がんばっちゃうね」という声かけや、何気ない雑談が仕事のモチベーションになって

■ 一目置かれる対応力

今は商品の発注も任せてもらえるようになりまし。どの商品をどのくらい発注するかはお客様の動向や季節によつて変わっています。例えば、お客様との雑談の中で来月もこの商品をケース買いつくれそう「この商品 人気出るかも」と感じたら多めに発注したり、ドリンクがよく売れる夏場は在庫を増やしたり。たまに予想以上に売れすぎて「もう来ないでくれ」と思われることもあります。



▲バックヤードでチームの後藤さんと発注の相談。

グロサリーの仕事とは別に、お客様がお買い物の後、駐車場やレジ横に置いていたカートやカゴを回収する業務も行っています。

■ 後輩との関わりで成長

2年前に同じ支援学校出身の後輩がグロサリーに配属され、仕事を教える機会も増えました。学生時代、陸上部の副キャプテンを務めていたので、教える立場のプレッシャーには慣れていました。ですが、部活と仕事は違うと痛感しました。特に新人社員への指導を任せられたときの緊張、プレッシャーは今も良く覚えています。色々な人がいて、それぞれ指導方法を変える必要もあつたので。上司や先輩に助けてもらいながらなんとか乗り越え、成長につなげることができました。今後は、苦手分野を一つずつ克服しながら、さらなる成長を目指したいと思っています。

障がいがあるとは思えないほどしっかりしている清水さん。上司、先輩、後輩の信頼も厚く、グロサリーの必要不可欠な戦力として期待されています。

周りに恵まれ楽しい毎日!

「Voice」

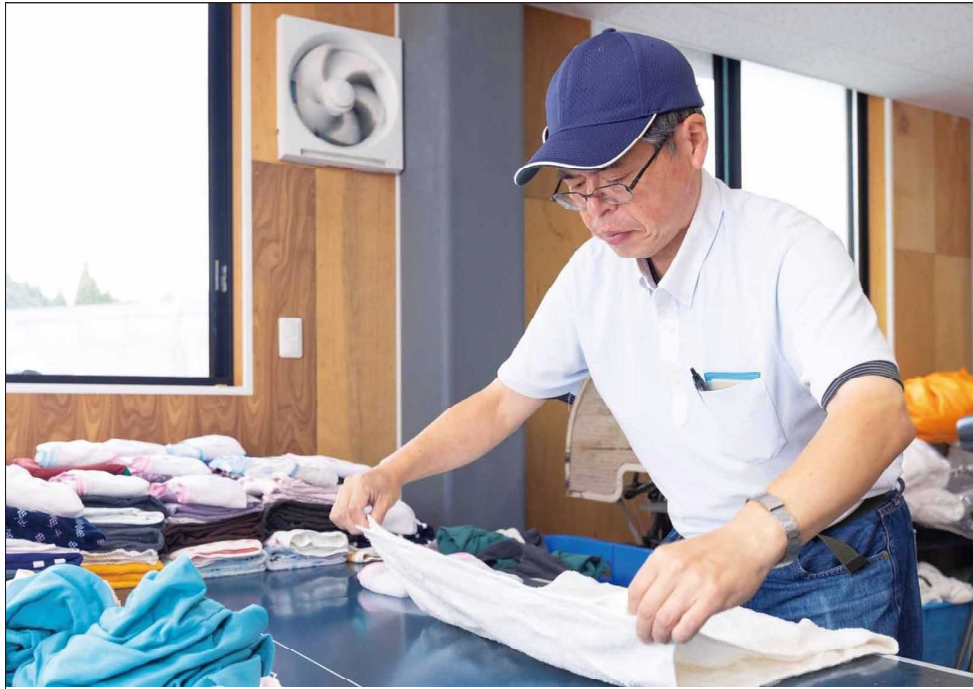
入社17年目
佐藤 理恵さん
知的障がい
元気で明るく
ムードメーカー



豊の国 雇用促進フェスタで表彰経歴あり!



鮮魚部門でパック詰めや値段貼りをしたり、商品の「おからまがし」を作っています。おからまがしはお客様にとっても好評で、自分でもびびりしています。「美味しかったよ」と声をかけられることもあつて、計算が苦手ですが、周りがしっかりサポートしてくれるので助かっています。
※1 醤油・ソースのタレに漬けただけのおからまがし 入浴剤



Corporate data

企業現場

Corporate X on-site

〒879-7306
豊後大野市犬飼町下津屋10番地
TEL.097-579-7455



株式会社リファイン大分
就労継続支援A型事業所ロイヤルウォッシュ



▲社長の宮迫賢太郎さんと、妹で常務の宮迫奈緒美さん

障がい者雇用拡大のために
就労継続支援A型事業所を開設
豊後大野市に拠点を置くリファイン大分の主な業務はリネンサプライ(宿泊施設にシーツやタオルなどのリネンをリースし、使用後のものをクリーニングする業務。約160のホテルや旅館と契約しており、大分県の観光インフラを支える企業のひとつである)としても過言ではありません。他にも介護施設向けの洗濯代行や個人向けの布団丸洗いサービスなど様々な関連事業を展開しています。
そんなリファイン大分の大きな特徴は、関連会社ロイヤルウォッシュが運営する就労継続支援A型事業所以下A型事業所

一般就労の可能性を広げるために

現在、リファイン大分は障がい者の就労を多角的にサポートするシステムの構築に取り組んでいます。「A型事業所のロイヤルウォッシュとは別に、就労移行支援事業所も運営しています。発達障がいなどが原因で休職や離職を余儀なくされた人が復職・就職を目指し、学ば施設です。リファイン大分、A型事業所、就労移行支援事業所を連携させることで障がい者の職業の選択肢、就労の可能性を広げていきたいと思っています。近年課題になっているA型事業



▲リネンに汚れやシワがないかしっかりチェック



▲使用後のリネンを仕分ける別き作業

所数の地域格差、大人の発達障がいの増加などを考えても、必要不可欠な取り組みです」と宮迫社長。すでに、A型事業所からリファイン大分へのキャリアアップなど新しい試みがスタートしているといえます（右下部表参照）。

障がい者だけでなく、シニア、引きこもりなど就労に関して難しいとされる層の雇用も積極的に進んでいるリファイン大分。「みなさん貴重な戦力です」という宮迫社長の言葉からは、一人ひとりを尊重し、寄り添う心が伝わってきます。

と連携していること。「障がい者雇用は先代の頃から継続して行なっていました。ただ、10年ほど前に障がい者雇用を拡大しようと考えたとき、企業単体で出来ることに限界を感じたんです。障がい者の人数が増えれば支援に関して不安が出てくるし、一般就労のハードルを高く感じてしまう障がい者も多い。何か良い方法はないかだろうかと模索する中で行き着いたのがA型事業所という形態でした。支援員がいる福祉事業所なら私たちも、障がい者も安心できると考えたんです。そう話すのは宮迫社長。ちょうど国がA型事業所の開業を推奨していた時期でもあり、2013年、リファイン大分の関連会社として「就労継続支援A型事業所ロイヤルウォッシュ」の立ち上げに踏み切りました。

現在、A型事業所には精神、発達、知的、身体と様々な障がいを持つ28名の利用者が在籍し、支援員のサポートを受けながら、リファイン大分の工場内で、リファイン大分から受注した業務を行っています。別会社ですが、リファイン大分の障がい者部門のような位置付け、と考えると分りやすいかもしれません。

A型事業所との連携によるプラスの効果

- **細やかなサポート**
障がいについて熟知した支援員がしっかりサポート
- **業務の効率化**
利益に直結しない前準備などを利用者が担当することで全体の作業効率がアップ
- **社内環境の改善**
障がい者への配慮（ミスをしにくい仕組みづくりや、移動しやすい動線確保など）で、リファイン大分の社員も働きやすくなった

相互理解を促し、職場環境を整備

A型事業所を立ち上げた直後は苦労も多かったといえます。「最初に一人ひとりの特性を考慮しながら、利用者」とリファイン大分の業務のマッチングを行いました。でも、実際に働き始めるとうまくいかないことも多かったですね。例えば、一緒に働くリファイン大分の社員・パートナーさんとの関係性。悪気はなくてもちよつときつめに聞こえる口調や、具体的に欠ける漠然とした指示で利用者がパニックになってしまうことがあつて…。両者に根気強く説明し、少しずつ相互理解を深めていきました。もちろん、社員・パートナーさんの指導



▲利用者とは家族のような関係

のおかげで利用者が成長できた部分もあります。そう振り返るのは社長の妹であり、A型事業所の支援員を取りまとめる常務の宮迫奈緒美さん。現場の理解を得ながら、「機械を触れない目の不自由な利用者のために洗濯物をたたむチームを新設」「ミニキッチンが苦手な利用者が気兼ねなく働けるよう、A型事業所のメンバーだけの部門を作る」利用者や不安を相談しやすいよう、積極的に声かけを行う（「信頼関係の構築」など）、少しずつ体制を整えていったといえます。今では利用者もすっかり馴染み、業務の効率化など様々な面で貢献。リファイン大分にとって必要不可欠な戦力となっています。

※1 A型事業所を利用する障がい者のこと

Voice 上野 博孝さん
入社10年目、統合失調症



**直感でここに決めて大正解！
趣味のエクストーンも楽しんでます**

通所のきっかけは、以前通っていたB型事業所に勤められたこと。見学の段階で、人、雰囲気、作業風景に惹かれ、「絶対ここに通いたい」と思いました。その直感は間違っていなかったと思います。それまでどんな仕事も続かなかつた私が10年もやれますから(笑)。担当している洗濯物をたたむ作業も楽しいですね。日常生活の延長線上の作業なので違和感がないんです。今は少しでも作業をスピードアップできるように頑張っています。ロイヤルウォッシュに来てからは金銭的にも余裕が出て、趣味のエクストーンを継続して習えるようになりました。今度6級の試験を受けます。学習者の試験の中では最高ランクなので、合格を目指し、練習に打ち込んでいます。



目標は、スピードUP!

入社9年目
田尻 さやかさん
知的障がい



**仕事に、趣味に
充実した毎日**

入社10年目
家近 大介さん
高次脳機能障がい

使用後のリネンを仕分ける別き作業を担当しています。これまで色々経験した中で一番長く続けているので、きつと自分に合っているんじゃないかな(笑)。利用者の中に気の合う人がいたことも支えになりました。その人はもうやめてしまいましたが、今は通所前からの友人や、大切な人と楽しく仕事をしています。たまに趣味のバウンドケーキを焼いてみんなにふるまっています。

グループ全体で障がい者の一般就労をサポート

